

市消防本部からのお知らせ

～ 2023年 春季火災予防運動 ～

空気が乾燥し火災が発生しやすい時季のため、一人一人が十分注意し、火災をなくしましょう！

お出かけは マスク戸締り 火の用心

(全国統一防火標語)

一緒に始めよう
火災予防

トラウデン直美

覚えて安心!
消火器の使い方

1 2 3



安全ピン
を抜く

ホースを
火元に向ける

レバーを
握る

春の火災予防運動

— 2023 —

一般財団法人

全国消防協会



11130-040907

住宅用火災警報器の設置状況調査にご協力ください

市消防本部では、住宅用火災警報器の設置状況を把握し、より効果的な普及啓発・維持管理広報を行うために設置状況調査を行います。

調査期間

3月 1日（水）～7日（火）（春の火災予防運動実施期間）

調査対象

100世帯を無作為抽出します

調査方法

消防職員が直接訪問し、聞き取り調査します
（訪問の際には消防手帳を提示します）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により延期または中止する可能性があります

住宅用火災警報器のお手入れの3つのポイント

- ① 乾電池タイプは交換を忘れずに
定期的な作動点検のときに早めの交換をおすすめします。電池が切れそうになったら、音やランプで交換時期を知らせてくれます。
- ② おおむね10年を目安に機器交換をしましょう
機器交換は、機器に交換時期を明記したシールが貼ってあるか、音などで交換時期を知らせてくれます。
- ③ 定期的に作動するか点検しましょう
住宅用火災警報器が鳴るかどうか、定期的に点検してみましょう。点検方法は、本体の引きひもを引くものや、ボタンを押して点検できるものなど機種によって異なります。

※消防職員が住宅用火災警報器や消火器を販売することはありません

地震による電気火災対策を

東日本大震災における火災原因の過半数が電気火災でした。地震による電気機器からの出火や、停電の復旧時に発生する火災を防ぐには、感震ブレーカーが効果的です。

感震ブレーカーは、揺れを感知すると自動的にブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。さまざまな種類があり、それぞれの特徴を踏まえて適切に設置しましょう。

- 分電盤タイプ・・・約2～8万円程度
内蔵型、後付型があり、センサーが揺れを感知してブレーカーを切って電気を遮断します。
- コンセントタイプ・・・約5千円～2万円程度
コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。
- 簡易タイプ・・・約2～4千円程度（ホームセンター等で購入できます）
ばねの作動や重りの落下などにより、ブレーカーを切って電気を遮断します。

